

音楽科学びづくり案

福山市立霞小学校

- 1 日時 2025 年（令和 7 年）10 月 31 日（金）
- 2 学年 第 4 学年 1 組（19 名）
- 3 題材名 いろいろな音のひびきを楽しみながら、音楽をつくろう（教育芸術社）
- 4 題材について

（1）題材観

本題材では、学習指導要領音楽科 A 表現 2 内容（3）ア（ア）、イ（ア）、ウ（ア）を受けて設定した。この題材では、いろいろな音の響きやその組合せを楽しみながら、即興的に音楽をつくり、楽器の材質や演奏の仕方の違いによる音色の特徴やそれらを組み合わせた音の響きのおもしろさを感じ取ることができるようにすることをねらっている。本題材は、楽器特有の音色を感じとったり、即興的に音を鳴らして音の響きを感じたりするなど、児童が様々な表現の仕方を試行錯誤するなかで音楽づくりの発想を得ることができる。

（2）児童観

3 年生では「いろいろな音のひびきに親しもう」の題材を通して、楽器の音の特徴や音色の違いを感じ取りながら、互いの楽器の音を聴いて合わせたり、楽器の音色に気をつけて音楽を表現し聴いたりする学習をしている。また、音楽の学習に自ら取り組もうとする姿が多く見られる。特に歌唱では、友達と声を合わせてどのように歌うか試行錯誤をしながら曲の構成を考え、協同的に音楽づくりを行う姿が見られる。しかし、グループでの音楽づくりの際に音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組みなどを選択したり関連させたりしながら音楽を作ることになれていない。即興的に音に表すことへの興味はあるが、「いろいろな木の実」では、思い付いた考えを実際に音で表したり、自分の工夫した音を表現したりすることが難しい児童もいた。

（3）指導観

指導にあたっては、楽器の音色や音の特徴を生かした音楽づくりの発想を得るためにそれぞれの楽器で音を出したり、楽器の特徴を生かした音の鳴らし方を本で調べ表現したりする活動を繰り返す中で音の響きのよさに気付かせる。また、図画工作科の「すてられそうなものがよみがえる」の単元と関連させ、既成楽器を基に工作楽器を 4 人グループで作って模奏し、即興的に音で表すなど、それぞれの楽器に固有の音色や響きがあることに気付かせる。即興的に演奏させるためにも友達と関わりながらそれぞれの楽器で工夫した音を交互に表現する活動や見つけた音を使ってみんなで模倣する活動を行う。即興的に演奏することが難しい児童には、線や図形、絵などを楽譜に見立てて楽器の音で表現したり、児童が思い付いた考えを、交互に音に出して確かめたりするなど、音を選択したり、組み合わせたりして表現させる。

学校図書館の活用については、それぞれの楽器の特徴を生かした音の鳴らし方を実際に調べ、児童が模倣したりする中で音の響きのよさや鳴らし方の工夫を発見することができるようにする。また、工作楽器を即興的に鳴らすだけでなく、それぞれの楽器の鳴らし方に関する本を活用することで自分なりの音の響きを見つけられるようにする。

5 本題材の目標と評価規準

(1) 本題材の目標

○楽器の音の特徴や、曲想と工作楽器の音色の特徴との関わりに気付くとともに、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。

【知識及び技能】(3)ウ(ア)

○楽器の音色を生かして即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得る。

【思考力、判断力、表現力等】(3)ア(ア)

○楽器の音色が生み出す面白さに感心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準 () 内は鷹取中学校区育成する力(資質・能力)

知識・技能 (知識・技能)	思考・判断・表現 (課題発見・解決力)	主体的に学習に取り組む態度 (主体性)
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。【知識】 ・発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色が生み出す面白さなどに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

6 題材計画(全3時間)

次	時	学習活動案	学校図書館活用のポイント	評価規準
一	1	○楽器の材質に注目しながら、音の鳴らし方を工夫したり、音の響きや音の特徴を調べたりする。	○それぞれの楽器が何でできているかなど、本を使って調べることで楽器の特徴を理解できるようにする。	・いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。(発表、ワークシート)【知識】

	2	○いろいろな音のつなげ方や重ね方に注目して音楽を聴いたり表現したりする。	○楽器の鳴らし方に関する本を活用することで楽器の特徴を生かした音の鳴らし方を見つける。	・楽器の音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。(観察、発表)【思①】
二	3 (本時)	○音色の特徴を生かして班(3人～4人)でいろいろな楽器を組みわせて音をつなげたり重ねたりする。	○楽器の演奏の仕方に関する本を活用することで楽器特有の音色の出し方を発見する。	・発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。(ワークシート、観察)【技能】 ・楽器の音色が生み出す面白さなどに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(観察)【主】

7 本時の目標

- ・発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくる。
- ・楽器の音色が生み出す面白さなどに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

8 本時の展開

展開	◎学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意事項	◆評価規準 (評価方法)
導入 (3分)	◎それぞれの音のひびきや音色は全て同じだった？ ・ギロは棒でする強さを変えたら音は大きくなった。木で作られているので、あまり響かなかった。工作で作ったギロはゴムをはじくこ	○既成の楽器と工作楽器の音色の違いやよさについて考えさせ	

	<p>とで音を出すことはできたけどギロよりは音は小さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライアングルは金属でできているので良く響いた。優しくたたいても響きは長く続いた。 ・トライアングルやトーンチャイムなど音の響きが長いものはきれいで音がやわらかい。 ・同じタングリンでも叩き方を変えたら響きが違った。 ・クラベスやカスタネットは音が高い感じだった。 	る。	
	<div>学校図書館活用のポイント</div> <div>自分なりに音の鳴らし方を工夫したり楽器の奏法に関わる本を活用したりしてお気に入りの響きを発見させる。</div>		
展開 (37分)	<div>㊦いろいろな音の響きを組み合わせ、音楽をつくろう。</div>		
	<p>◎楽器を組み合わせいろいろな響きを表してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・響きが長い楽器だけを同時に鳴らすと響きが長く続きそう。 ・自分の工夫した音と友達の工夫した音を交互にならしたら面白そう。 <p>◎それぞれのグループで作った音楽を紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・響きが長いトライアングルとトーンチャイム、シンバルの音で会話をしているような音楽で聴いていて楽しかった。 ・音がかたい楽器を組み合わせると、互いに音を重ねたり、追いかっこしたりしているみたいで面白かった。 ・響きの短い楽器で音を交互に鳴らしてみたら、会話しているみたいで面白い。 ・赤ちゃんとおじさんが話しているみたいで面白い。 	<p>○楽器によって材質が違ふことで音の響きが違ふことを想起させる。</p> <p>○楽器の奏法に注目させることで同じ楽器でも音の響きに違いがあることに気付かせる。</p> <p>○楽器の奏法に関する本や材質に関する本を準備しておくことで材質による音の響きが違ふことを振り返らせる。</p> <p>○音の組み合わせ方が分からない児童には様々な音のつなげ方や重ね方の例を図で提示することでイメージをもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくらしている。(ワークシート、観察)【技能】 ・楽器の音色が生み出す面白さなどに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音

終末 (5分)			楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(観察) 【主】
	◎本時のまとめをする。		
	・響きが長い楽器を組み合わせると、人の声が重なっているような音楽ができた。 ・即興的に響きの短い楽器を組み合わせると、「とんび」の学習で習った呼びかけとこたえのような音楽ができて面白い。		
	◎ふり返りをする。		
	・それぞれの楽器で音を重ねてみると会話しているみたいで面白かった。	○ふり返りの観点を提示して書かせたものを交流する。	

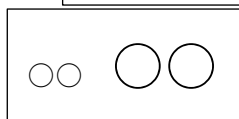
9 板書計画

㊦ いろいろな音の響きを組み合わせ、音楽をつくろう。



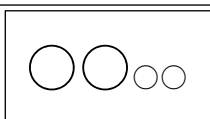
・ウッドブロックとトライアングルを組み合わせると、音の高さや長さが違って面白い。

条件：①楽器を組み合わせる ②ひとり1人が4拍で即興的に表現する中で音の響きをつくる
③ちがう音の響き



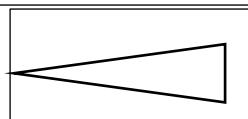
p

f



f

p



♪

♪

♪

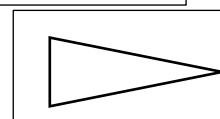
♪

♪

♪

♪

♪



㊦ ・響きが長い楽器を組み合わせると、人の声が重なっているような音楽ができた。

・即興的に響きの短い楽器を組み合わせると、「とんび」の学習で習った呼びかけとこたえのような音楽ができて面白い。

壁の掲示物 (いろいろなつなげ方や重ね方の例を図で表したもの)

